



教育で未来をつくる
ROJE



ROJE
may fes
education
forum

NPO法人日本教育再興連盟主催
五月祭教育フォーラム2022

学校教育だけでは 終わらない ～日常に新たな学びを！～

2022年5月15日(日)
13:00～14:30

東京大学 本郷キャンパス
法文1号館(東)2階 法25番教室
または
YouTube Live

Contents

p.03 代表挨拶

p.04 フォーラムの流れ

p.05 登壇者紹介

p.08 用語集

p.11 フォーラム基礎知識集

p.18 ROJE体験記

p.19 ROJEとは？

p.22 学生スタッフ紹介

p.23 協賛企業

代表挨拶

五月祭教育フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。
本フォーラムのテーマは「これからの時代の学びの多様性」です。現在、様々な教育課程において教育改革が検討・実施されています。

21世紀以降、グローバル化と情報化の加速によりこの世界は大きな変化を遂げてきました。加えて、ここ1、2年間未曾有の出来事によって世界が一変したことで、私たちは変化の激しい時代を生き抜くために、新しい技能や知識を学び続けることの重要性を改めて実感しています。

しかし、その根幹を担う公教育の体制はほぼ変化しておらず、依然として教員が一方向的に教える形を中心とした授業が行われています。また、学生が主体的に活動する場を十分に設けることができず、学生自身の思考力を養う機会が不十分であることも、公教育の問題のひとつになっています。

こうした公教育の問題点を私たちはどう補っていくべきなのでしょうか。また、学生が最適なキャリアを選択するための機会を、社会はどう提供すべきなのでしょうか。そして、変化の激しい時代を生き抜く人材となるために、私たちは生涯にわたってどう学び続けるべきなのでしょうか。当フォーラムでは、公教育の役割を問い直しその問題点を挙げた上で、これからの私たちに必要な新たな学びについて考察していきます。

私自身、2年前に大学に入学し、様々な考えを持つ方々と出会いお話をすることがそれまでと比較して飛躍的に増えました。これからの時代で求められる技能・マインドは、それまで学校教育の中で教わってきたことの他にも多くあると実感しました。大学の級友と、授業や課外活動などにおいて話を交わすなかで、自分自身の頭で考える力や主体的に動く能力を養うことの必要性を感じています。現在行われている高校までの教育には存続すべき多くの事柄がある一方で、これからの時代に必要な能力を養う事を考えた時に、不十分さも存在することを実感しました。

このような経験は、本フォーラムのテーマを設定する契機にもなり、価値ある体験だったと考えています。本フォーラムが予測不可能な社会・世界を生きていく多くの人々にとって、前向きな一歩を踏み出す一助となることを切に願っています。

最後に、本フォーラムを開催するにあたり多くの方々にご助言、ご助力を賜りましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。今年度は対面とオンライン配信のハイブリッド形式で開催させていただき運びとなり、より多くの方々にフォーラムをお届けできることを嬉しく思います。ご参加いただく皆さまにとって有意義な時間になりますと幸いです。

それでは、フォーラムをお楽しみください。

令和4年5月15日
五月祭教育フォーラム代表
東京大学3年
西村拓海

フォーラムの流れ

13:00～

開会挨拶

理事挨拶

基調講演①(日野田直彦氏)

～「ミライの学校」の創り方～

基調講演②(真坂淳氏)

～激動の時代にイキイキ生きるために～

基調講演③(滝川麻衣子氏)

～社会人も学び続ける時代がやってきた～

13:30～

休憩

13:35～

パネルディスカッション ～新たな学びの実践に向けて～

(日野田直彦氏×真坂淳氏×滝川麻衣子氏

×赤松瑚子×鈴木寛氏)

各登壇者様から閉会前のメッセージ

閉会挨拶 他

14:40～

参加者事後交流会(任意参加)

登壇者介紹

日野田直彦

武蔵野大学中・高、武蔵野大学附属千代田
高 中高等学園長／千代田国際中学校 校長

帰国子女。帰国後、同志社国際中学校・高等学校に入学。同志社大学卒業後、学習塾「馬淵教室」（株式会社ウィルウェイ）に入社。2008年奈良学園登美ヶ丘中学・高校の立ち上げに携わる。2014年、大阪府の大阪府立学校校長公募に応募し、民間人校長として大阪府立箕面高等学校に着任。全国の公立学校で現役最年少（36歳）の校長として改革を推進する。着任3年目には、海外トップ大学への進学者を含め、顕著な結果を出す。2018年より武蔵野大学中学/高校の校長に着任。2020年より武蔵野大学附属千代田高の校長を兼務。2021年より両校の統括校長（中高等学園長）に着任。2022年には千代田国際中学校を新設し、校長に着任予定。学校再生のプロフェッショナル。著書『なぜ「偏差値50の公立高校」が世界のトップ大学から注目されるようになったのか!?』。



真坂淳

キャリア教育NPO法人 日本学生社会人ネットワーク (JSBN) 代表理事/BNPパリバ銀行グローバルバンキング本部 マネージングディレクター/米国公認会計士

中央大学法学部卒、1990年に住友銀行へ入行する。入社5年目でシンガポール支店へ赴任、さらに2年後にニューヨークへ渡る。会計や税務の本格的知識の必要性を痛感したことから、カルフォルニア州立大学で3年間勉強し、2007年に米国公認会計士を取得。その後日本へ帰国。2012年7月、変化の激しい時代を生き抜くために自分の頭で考えられる若者を育成することを目的とした、キャリア教育NPO法人 日本学生社会人ネットワーク (JSBN)を創設。現在、JSBNの活動と国際金融の二足のわらじを履いて活動している。



滝川麻衣子

株式会社Schoo（スクー） CCO

大学卒業後、産経新聞社入社。広島支局、大阪本社を経て2006年から東京本社経済部記者。ファッション、流行、金融、製造業、省庁、働き方の変革など経済ニュースを幅広く取材。2017年4月からBusiness Insider Japanの立ち上げに参画。記者・編集者、副編集長を務め、働き方や生き方をテーマに取材。さまざまな企業の取り組みや課題を取材する中で「社会人の学び」の重要性を確信し、2021年12月、スクー入社。コンテンツ部門責任者として、これからの社会で必要とされるコンテンツ制作に従事。



鈴木寛

東京大学法学部卒業。通商産業省、慶應義塾大学助教授を経て参議院議員(12年間)。文部科学副大臣(二期)、文部科学大臣補佐官(四期)などを歴任。教育、医療、スポーツ、文化、科学技術イノベーションに関する政策づくりや各種プロデュースを中心に活動。現在、そのほかに大阪大学招聘教授(医学部)、千葉大学医学部客員教授、電通大学客員教授、福井大学客員教授、和歌山大学客員教授、神奈川県参与、神奈川県立保健福祉大学理事、OECD教育スキル局教育2030プロジェクト役員、World Economic Forum Global Future Council member, Asia Society Global Education Center Advisor, Teach for All Global board member, 日本サッカー協会理事、ユニバーサル未来推進協議会会長なども務める。

※プロフィールは2022年5月現在のものです。



用語集

〈公教育〉

国または地方公共団体またはその機関が管理する教育を総称する。その要素は、公の団体が設置する（公設）、公の費用で運営する（公費）、公の機関が管理する（公管理）などがある。特に、法律による管理と捉えた「公管理」の観点から考えると、公教育には私立学校や専修学校なども含まれる。

公教育の変遷に関しては、当冊子「基礎知識集」に詳細が書かれている。

〈私教育〉

大人が自分や関係する子弟に対して自由に行っているもので、家庭教育・地域社会の教育・企業内教育・塾や予備校などの教育を指す。

これらは、人間のどんな社会にも見られる、日常的で非公式のinformal教育である。

〈生涯学習〉

一般には、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習を指す。

また、特に社会人の方々が、時代に適応した知識や技能を学び直すという意味も持つ。

新たな時代に向けて社会が大きな転換点を迎える中にあり、生涯学習の重要性は一層高まっている。

〈学びの多様性〉

当フォーラムでは、多くの選択肢から自分の意志で選択した環境で選択した内容を行うことができる状況のことを指す。

現在「学びの多様性」が求められている背景として、複雑化している現代においてよりよい人生を送るための選択肢が増えていること、変化の激しい社会を生き抜くうえで多角的な視点から物事をみる必要があることなどが挙げられる。

多様な学びの内容の例としては、NPOでの活動や資格獲得に向けての学習、習い事などが挙げられる。

〈世代間交流〉

異なる世代同士、特に生徒・学生と社会人の交流を指す。

例えば、地域の現状を知るために授業で実際にその地域で活躍されている社会人の方をお呼びすること、社会人が学生主体のワークショップに参加し最先端のITを学ぶことなどが挙げられる。

〈リカレント教育〉

社会人の学び直しのこと。教育を受ける機会から一度離れたとしても、必要なタイミングで再び教育を受けることがリカレント教育の趣旨と言える。仕事に活かせる知識やスキルを習得することを主な目的とする。

参考：

デジタル版日本大百科全書 <https://kotobank.jp/word/%E5%85%AC%E6%95%99%E8%82%B2-61733>
(2022.05.07最終閲覧)

WASEDA ONLINE https://yab.yomiuri.co.jp/adv/wol/opinion/culture_120305.html (2022.04.24閲覧)

文部科学省HP https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1421865.htm
(2022.04.24閲覧)

RECRUIT AGENT <https://www.r-agent.com/business/knowhow/article/10307/?msclkid=6c45cb96d06e11ec9962d9563ab66999> (2022.05.10閲覧)

フォーラム 基礎知識集

絶えず変化する社会に生きる人々

現在、全世界においても、日本国内においても激動の時代に突入していると言われています。平均寿命が伸び続け、多くの人々が退職後も長い年月を生きる時代に突入しているのです。また、少子高齢化や国家財政の破綻の危機など大きな社会問題が次々に浮き彫りとなり、先が見えない未来の中で自らの人生をどう生きるかについて考える機会が増えています。内閣府の行った「国民生活に関する世論調査」によると、人生の豊かさに対する国民一人一人の意識は変化しており物質的な豊かさより心の豊かさを重要視している人が着実に増えています。

(参考：内閣府「国民生活に関する世論調査」<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-life/2-2.html>)

新型コロナウイルスの流行(COVID-19)

2019年末、中華人民共和国で第一の感染者が発覚して以来、新型コロナウイルス(COVID-19)は世界中で猛威をふるい続けています。2022年4月現在、世界の感染者数は累計5億人を超えています。日本も例外ではなく、今なお感染者数は増え続けています。

この新型コロナウイルスの流行は、教育にどのような影響をもたらしているのでしょうか。オンライン学習という新たな選択肢の浸透により、学びが多様になっている面は大いにあります。時間・場所を問わずに学べるだけでなく、インターネットを通じてさまざまな学びへと参加できます。しかしながら、新型コロナウイルスの流行以前と比べ、授業内での学習内容を超えた学びの多くは制限され、学生が将来を考える機会を奪われています。例えば、修学旅行をはじめとする宿泊行事が中止されたり、外部団体との連携した課外活動が取りやめとなったりしています。課外活動の中でも、キャリア教育の取りやめは学生に大きな影響を与えています。キャリア教育とは、学校の先生による職業説明から企業の方を招いた仕事紹介、職場体験など職業について知ることのできる全ての活動を指します。

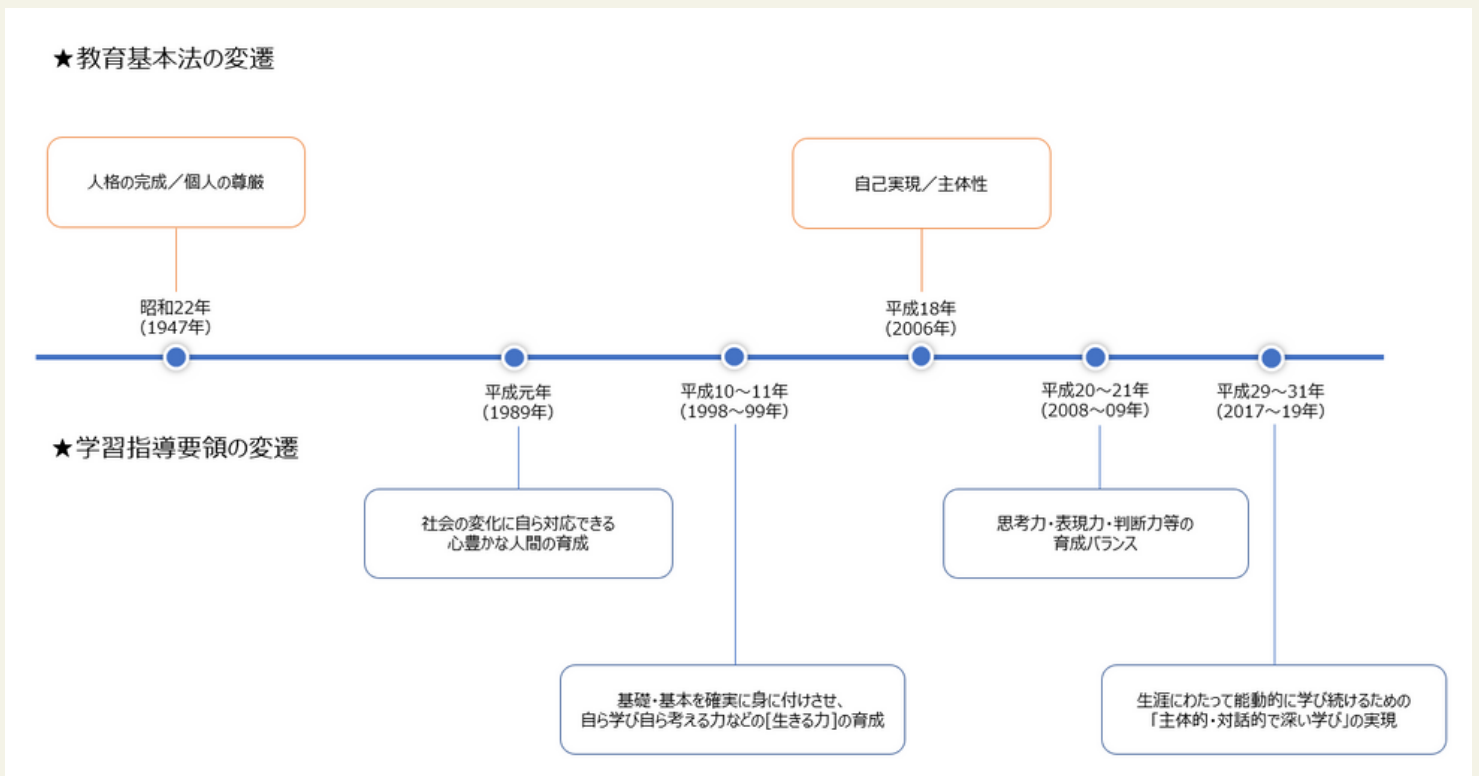
経済産業省の調査において、コロナ禍で8割以上の企業・団体が「学校におけるキャリア教育の実施件数が減少した」と回答していることから、本来持ち得るべき学生たちの将来への選択肢を知る手段が奪われていることがうかがえます。

(参考：経済産業省「コロナ禍でも学びを止めない！ キャリア教育レポート」
2020career_report.pdf (meti.go.jp))

公教育の変遷

19世紀以降は近代文明の社会的要求と国家繁栄のための目的が相まり、国家権力が公教育制度を成立させるに至りました。

その後1947年、教育基本法や学校教育法が整備され小学校6年間・中学校3年間というシステムが構築されました。その後、59年経った2006年に初めて教育基本法が改正されるまで、同じ制度下で動き続けてきました。今日本を動かしている人々は、旧制度のもとで教育を受けてきたことは紛れもない事実です。昔の教育制度で求められた人材はとにかく指示された行動を忠実に・早く・正確に行う能力を持つ人でした。戦後の急激な経済発展を支えた工場労働者などはそのような人材だったのです。しかし、改正教育基本法により示された日本の教育で育成すべき資質能力としては、時代や社会の変化に対応できる・公共に主体的に参画する意識・態度を持つなどがあげられています。学習指導要領からもその変化に対応した人材育成を目指す政府の姿を感じ取れます。下の図では改定される学習指導要領の一部を抜粋して掲載しました。以下のように政府側も常に教育と社会を切り離さないように教育環境・内容を整備し続けているのです。



(参考: 文部科学省「学習指導要領の変遷<https://binged.it/398dt6a>
文部科学省「新しい教育基本法と教育再生」<https://binged.it/3spJz4g>より作成)

【資料】

「統合イノベーション戦略2021」(内閣府)

「統合イノベーション戦略2021」は、2021年の1年間で「一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会」の実現などを目指して掲げられた政府目標であった。これは、先にある「絶えず変化する社会」の実状があると言える。そこでは、以下のように生徒・学生と社会人それぞれに関する新たな学びが提示されていた。

• 生徒・学生の学び

- 中等教育の段階から、生徒の自発的な「なぜ?」「どうして?」を引き出し、好奇心に基づいた学びを実現する。また、多様で個性的な知識基盤としての大学群の整備とともに、高等専門学校の教育の高度化によって、個人の多様なニーズに応じた学びを提供し、人々の人生や生活を豊かなものにしていく。

• 社会人の学び

- 社会人の学び直しの機会の拡充や個人の兼業、副業、転職等の後押しにより、意欲と能力を持った人材の流動性を高め、社会全体としての「知」の循環を促進し、新たな価値の創造につなげる。



地域の人的資源等を活用し、学校教育と社会との連携を進めていく。

例えば、最前線の研究者や起業家の教育現場への参画を促進し、「一流」や「本物」に触れる機会の拡大を通じて、生徒の好奇心を高める。

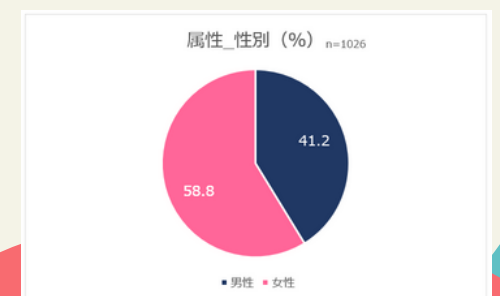
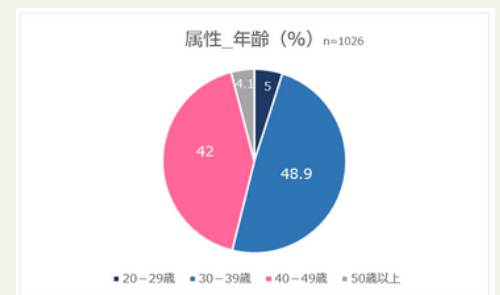
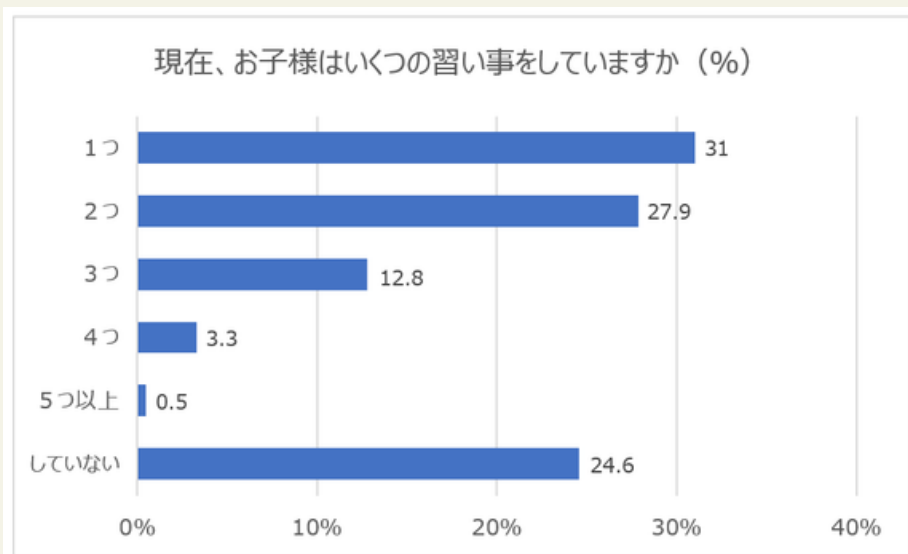
社会人となってからも、個人の能力が最大限発揮されるよう、複線型のキャリアパスの中で、希望する者が、多様で質の高いリカレント教育を受けることが可能な環境を実現する。

学校外での学びの例

児童・生徒・学生の学校外での学びの例として、NPOの活動、習い事、都道府県や市区町村が主催している教室へと参加することなどが挙げられます。

- NPOの活動
 - キャンプやスキー教室などの宿泊行事の開催、参加
 - フォーラムの主催、参加
- 美術館や博物館といった公の施設でのワークショップの主催、参加
- 習い事
 - サッカーや野球、水泳、ピアノ、プログラミング、英語教室など
- 都道府県や市区町村が主催している教室への参加
 - 伝統芸能体験会や一輪車クラスといった都道府県や市区町村が主催している教室に参加すること

これらを行うことによって、クラスメイトや学校以外の児童・生徒・学生・社会人などとの出会いが予想されるため、世代間交流も図ることができます。左下の資料から習い事をしている子供が75%以上いることがわかります。

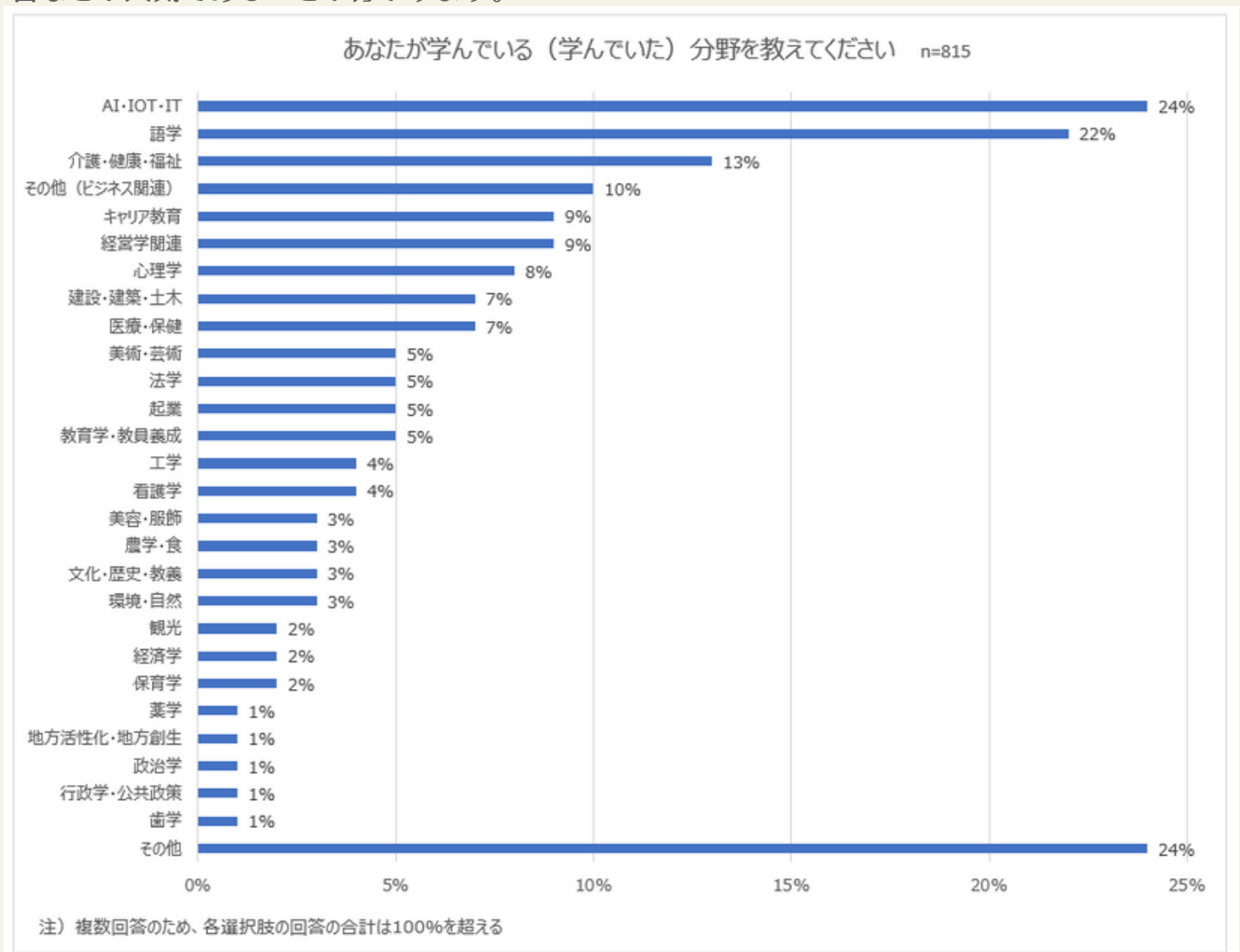


仕事以外で学びが実践される例

激動の時代の中、職業選択の幅を広げるため、また仕事で使えるスキルの向上に限らず人生を豊かにするためにも、学び続ける姿勢が必要になってきています。この学び続ける姿勢をもつために実践する、仕事以外の場における学びの例としては、大学や専門学校などでの学びなおし、職業訓練校への参加、民間の講座の受講といったものが挙げられます。

文部科学省の調査結果によると、社会人が主に学んでいる（学んでいた）分野として、「AO・IOT・IT」と「その他」が共に24%、次いで「語学」が22%と上位に並んでいます。（以下データ参照）

この結果から、社会人の仕事以外の場における学びでは、パソコンスキルやプログラミングの上達、語学学習などが人気であることが分かります。



出典：「EBPMをはじめとした統計改革を推進するための調査研究」

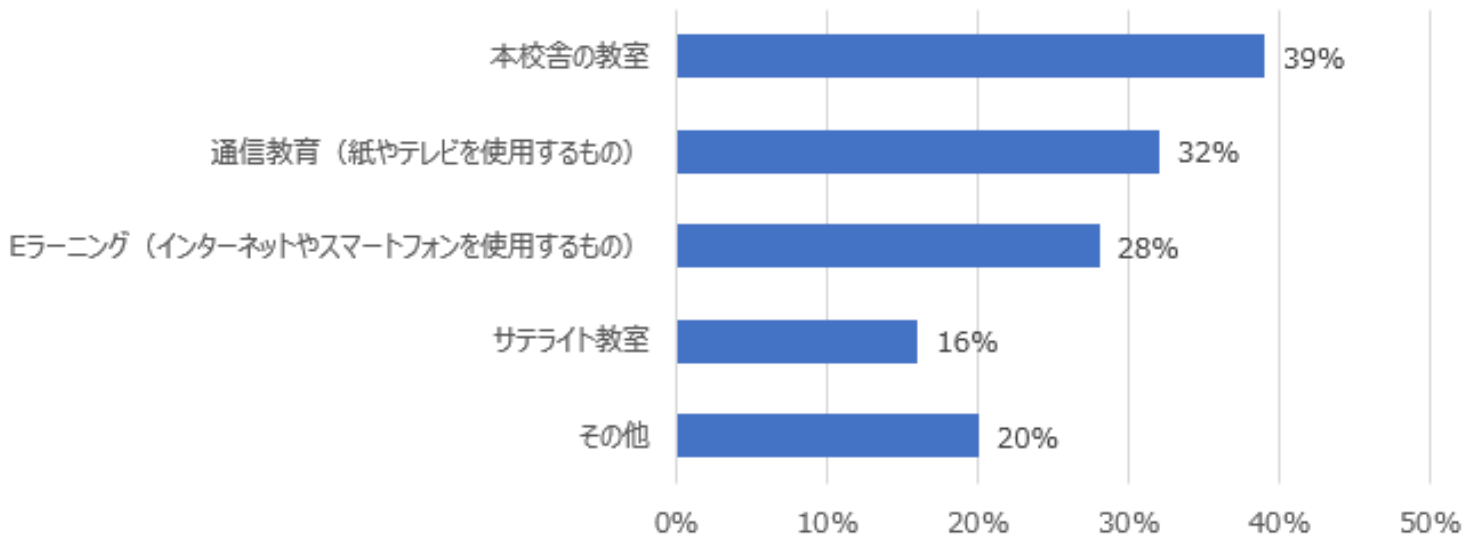
https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_chousa01_100000172_05.pdf

(2022.05.04最終閲覧)

また、学んでいる（学んでいた）環境としては、「本校舎の教室」が39%、「通信教育（紙やテレビを使用するもの）」が32%、「Eラーニング（インターネットやスマートフォンを使用するもの）」が28%、「その他」が20%、「サテライト教室」が16%です。（以下データ参照）

本校舎の教室が最も利用者が多かったものの、通信教育やEラーニングの受講者も次いで多かったことから、今や社会人においては対面以外の学習方法も一般的になっています。

あなたが学んでいる（学んでいた）環境を教えてください n=815



注）複数回答のため、各選択肢の回答の合計は100%を超える

出典：「EBPMをはじめとした統計改革を推進するための調査研究」
https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_chousa01_100000172_05.pdf

(2022.05.04最終閲覧)

ROJE体験記

〈学びの多様性の観点から〉

実際このフォーラムを企画したROJEのメンバーは、ROJEでの活動を通じてこれまでどのように多様な学びを得てきたのでしょうか。ある学生を例に見ていきたいと思います。

【学生Aさんの例】

私は、「中高まなびプロジェクト」に所属しています。このプロジェクトは、「開かれた教室で拓かれた学び」をコンセプトに掲げ、中学生・高校生に向けた授業の企画・実践やワークショップの開催を行うものです。

このプロジェクトでは、実際に都内の高校で授業を行うにあたり、授業内容の案出しから授業実践まで、プロジェクトメンバーが主体となって行います。具体的には、「その授業を通して何を生徒に学んでほしいのか」を強く意識した授業案・授業計画を作成し、それに則ったスライド、ワークシートも併せて作成するという綿密な準備を経て、授業を実践しました。私は教育学部在籍ではないので、「中高まなびプロジェクト」での経験は、大学の授業を受けているだけでは得られないものでした。この経験から私は、「他者に届けることを前提に、様々な企画を考え実践することの大変さと面白さ」を学びました。

また、このような授業実践を行うにあたり、先生方にも支えていただきました。準備段階で先生方との打ち合わせを重ね、プロジェクトメンバーが作成した授業案を洗練させていきました。打ち合わせを通じて、授業内容に関わるだけでなく、現在の社会で必要とされている生徒や、そのような生徒を育てるための先生方の熱意を伺うことができ、貴重な経験になったと思っています。

このプロジェクトで得た学びは、大学の授業だけでは得られないものばかりでした。加えて、異なる世代の人と接する機会の重要性を実感することができました。

ROJEとは？

【運営団体紹介】

NPO法人ROJEは、陰山英男・鈴木寛と大学生メンバーが中心となり、2005年に設立した教育NPOです。現在、全国の約300人以上の教育に興味や志をもった大学生メンバーが中心となり活動しています。

「教育で未来をつくる」という行動理念の達成のため、次の5領域10の活動を行っています。

活動の中心は、教育に志がある学生メンバーによって担われており、関東・関西を拠点としています。大学生が自ら問題意識をもち、社会人や専門家と協働しながら活動を行っています。

〈学校ソリューション領域〉

• 学校ボランティアプロジェクト

「子どもの『できる』を増やし、成長を支援する」という理念を掲げ、提携している都内の公立小中学校に大学生・大学院生をボランティアとして派遣しています。

大学生が主体となって運営しており、運営メンバーはボランティアや学校と協力して、より子どもの成長を支援できるように日々活動しています。

• 中高まなびプロジェクト

中・高生に向けた授業実践を行なっています。コンセプトは「開かれた教室で学びが拓かれている未来」です。

全ての人々が、生徒とふれあい、学び合える「開かれた教室」で、5教科の学習や受験のための学習に限らない「拓かれた学び」を目指しています。

〈メディアコンテンツ領域〉

• 先生のための教育事典EDUPEDIA

「先生の教育実践を発信するサイト」です。

教育現場に存在しているすばらしい教育実践をこのサイトに集約し、情報を探している先生方にお届けすることを目的としています。

「困っている先生の力になりたい！」そんな思いが集まった教員・社会人・大学生によって運営されているプロジェクトです。

〈防災・復興領域〉

- つばみプロジェクト

福島県南相馬市の小中学生を対象にキャリア教育による震災復興支援を行っています。

東京での宿泊型イベント「東京スタディーツアー」を中心に震災・原発事故によって自分の将来を考えにくい状況に置かれた子どもたちへ支援しています。

- わたげプロジェクト

「すべての人が災害と向き合う社会をつくる」をビジョンに、防災教育を語り・学び合うコミュニティづくりや、防災教育の担い手育成ワークショップの開催、学校・地域における防災の出張授業など多様な事業を行っています。

〈イベント・コミュニティ領域〉

- 五月祭教育フォーラム・関西教育フォーラム

東京大学「五月祭」及び京都大学「11月祭」において教育フォーラムを企画・実施しています。

- 教育と仕事フェス

「大学生がキャリアモデルに出会い、将来を考えるきっかけになること」「一人一人が納得して自身のキャリアを決められること」を目指し活動を行っています。

毎回、教育業界からゲストをお呼びして、自身の仕事について熱く語っていただきます。学生時代の話や、就職のこと、今の仕事内容などをお聞きします。

- 対話と学びプロジェクト「futuraity」

「対話」をコンセプトとして、分野横断型の活動をしています。

人と人、学校と人、地域と人、風土と人とのつながりを生み出すきっかけづくりを、ラジオから参加型イベントへと広がる形で行います。

対話的關係性から、「学び」で未来をつくることを目指しています。

〈ピアサポート領域〉

- ギフテッドプロジェクト「sprinG」
ギフテッド特性があり、学校に馴染みづらいつと感じている小・中学生やその保護者に向けた居場所づくりに取り組もうと、2022年度より始動しました。
当団体OBである、児童精神科医・特別支援教育を専門とする大学講師といった専門職と、教育に志のある当団体の大学生が中心となって運営しています。
- オンライン支援PEER
コロナ禍を「災害」と捉え、他団体や地方自治体など関係機関と協力し、全国の子どもたちへの教育支援活動を実施しています。

【新規募集】

NPO法人ROJEでは、ともに活動する大学生メンバーを募集しています。

関東では東京学芸大学や早稲田大学、関西では京都大学や同志社大学など、地域の壁を超え様々な大学の学生がROJEの活動に参加しています。

大学の授業では出会うことのできなかつた教育への高い志を持つメンバーと出会い、教育の未来について真剣に考え、議論する場はあなたの大学生活をより豊かなものにするでしょう。また、教育関係の進路に進んだOB・OGほか、第一線で活躍する方をお呼びしての勉強会も定期的を開催しており、教育に関する様々な知識に触れ、深めることもできます。

6月上旬まで新歓説明会を開催予定する予定で、まだまだ新しい仲間を募集しています。この時期からの活動で不安という方にも丁寧に説明いたしますので、このフォーラムを聞いて「一緒に活動したい」と感じてくださった方はぜひお問い合わせください。

学生スタッフ紹介

PJリーダー

西村 拓海

学生登壇者

赤松 瑚子

企画

赤松 瑚子

武村 愛雛

橋本 匠

石井 孝大

山田 敦大

広報

水野 亮

西村 拓海

松田 珠璃

渉外

赤松 瑚子

武村 愛雛

橋本 匠

東大連携

橋本 匠

西村 拓海

当日資料

赤松 瑚子

武村 愛雛

橋本 匠

水野 亮

会計

西村 拓海

人事

西村 拓海

会場運営

西村 拓海

片岡 祐

佐藤 幸希

平塚 りみ

柳川 悠月

米山 花菜

演出

水野 亮

演出補助

田中 友理

千葉 未夢

永井 綾

半田 英里佳

松田 珠璃

光岡 大輝

アナウンス

久野 瑞季

Twitter実況

石井 孝大

EDUPEDIA取材

青木 門斗

安 柏勳

羽賀 尚生

片岡 祐

般若 莉子

佐藤 幸希

a.school MENTORS

圧倒的な没頭体験を子どもたちへ。

探究学習塾エイスクール (a.school) の、教育インターンシップ。

a.school MENTORS は、探究学習の担い手育成を目的とする、理論と実践を織り交ぜた長期インターンシップ・プログラムです。探究学習のフロントランナーであるエイスクールの直営校にて、グッドデザイン賞受賞のオリジナル・プログラムに触れながら、生徒一人ひとりの学びを支え伴走する「メンター」として活躍することを目的としています。

ワークショップ・ファシリテーションやメンタリングの力を鍛えるのはもちろん、探究的に生きるための思考法やマインドセットなど、インターン生（メンター）自身が「探究（成長）し続ける人」になるための土台を整えるところが特徴です。

数百名のインターン生を輩出！教育業界から人材派遣・コンサルティング業界、独立・起業まで、各界でたくさんの卒業生が活躍しています。

3つの特徴

探究学習の 実務経験を積める

小中高の教育現場はもちろんのこと、大学生や社会人に対しても、探究・創造的な学びや人材育成のニーズが高まりつつあります。

探究学習の習得に一番大切なのは、理論（インプット）と実践（アウトプット）のサイクルをまわし続けること。幼児から高校生までが通塾するエイスクールだからこそ、日々の授業運営をとおして、「探究とはなにか」「探究的な学び場はどのようにつくるのか」、実務経験に裏打ちされた学びを得ることができます。

探究学習ファシリテーター 育成講座を受講できる

全国の教員や民間の講師が切磋琢磨する、探究学習ファシリテーター養成講座「探究PLAYers!」を一部無料にて受講できます。

探究学習をはじめとする最先端の教育科学(※)についてその分野のトップランナーから学んだり、自らの授業運営で抱える悩みや経験談を他の受講者と共有したりと、《理論×実践×集合知》による複合的な学びです。

※アクティブ・ラーニング、ワークショップ・ファシリテーション、デザイン思考、哲学対話、STEAM教育など

ベンチャー企業での 事業開発経験

メンター業務に加え、希望者は広報・マーケティングからプログラム開発まで、会社のさまざまな業務に携わることができます。

過去事例

- 工学の素養をいかして、オリジナル・メカ工作キットを企画開発
- 行政案件にて、シンポジウムの企画運営や、探究学習の実態に関する調査研究に従事
- フィールドワーク手法をいかした、本郷・湯島の街歩き探究マップを開発
- 在学中に講師業務に挑戦（その後、正社員にステップアップ!）

詳しくはこちら！



探究

PLAYers!

探究学習ファシリテーター養成講座

「探究」の文化を背中で伝える大人を増やす

学校で、学習塾で、学童で。子どもの探究心を育む、全ての教育関係者対象。

昨今教育業界では様々なバズワードが飛び交っていますが、共通するのは、講義形式に代表される受け身の学びから、生徒が自ら問いを立てて試行錯誤を重ねる答えを模索するような「探究的な学び（以下、探究学習）」へとアップデートする必要があるという認識です。自然環境や社会情勢、テクノロジーなどが絶えず変化する先行き不透明な世の中を生きるには、個人個人も成長変化し続けなければいけません。学校教育のあとに続く長い人生にこそ、「学びに向かう姿勢」や「学びを楽しむ心」が必要となるのです。

社会の注目が増す一方で、探究学習を実践する教員の育成や、教育機関における探究文化の醸成が追いついておらず、「ゆとり教育」の二の舞になってしまうのではと危惧する声も少なくありません。また、学習塾や学童など民間の教育関係者からも、探究学習に関心があるもののそれぞれの現場にあった採り入れ方がわからない、という悩みを耳にします。

このような背景のもと本講座は、全国のさまざまな教育現場に「探究」の文化が根づくことを目指し、探究学習の実践者＝探究ファシリテーターを養成します。

3つの特徴

1

教員自ら探究者になる「姿勢」を養い、
探究学習に関する「授業運営」「授業設計」の力を伸ばします

探究は技術ではなく、生き方そのものです。教員自らが「探究者としての姿勢や態度」を身につけることで、探究の文化を背中で見せる土壌を耕します。このうえに芽を伸ばすのが、「授業運営力」「授業設計力」といった技術です。特に、授業プログラムや学習環境の組み立てに関する「授業設計（学習体験デザイン）」について学べる点は、他の既存講座にない魅力です。



2

【理論 × 実践 × 集合知】による、
複合的な学びを提供します

本講座のプロセスそのものに、探究学習のアプローチを採り入れました。講義による知識習得（インプット）で終わらず、仲間と切磋琢磨しあいながら実際の授業設計や運営に取り組む（アウトプット）ことで、実体験に基づいた深い学びを得ることができます。また、プロジェクト型学習（PBL）、デザイン思考、哲学対話、認知科学など、幅広い理論と手法をカバーするほか、探究学習のその先の「創造学習」領域をも対象とします。



3

入門講座・基礎講座・応用講座と
段階的に取り組めるシリーズをご用意しています

教員志望者からベテランの教員まで、経験値に応じた講座を選ぶことで
着実にステップアップできるレベル設計です。



探究学習に関する基礎知識と
探究的な姿勢の獲得



探究学習に関する理論やスキルの
習得 / 実践経験の獲得



探究学習を組織・地域全体で推進する
リーダーの育成

主催者について



探究学習100

本講座を企画運営する「探究学習100」運営事務局（㈱a.school内）は、2021年に立ち上がった、探究学習を推進するプラットフォームです。独自開発した探究学習プログラム「なりきりラボ®」「おしごと算数®」（小学生対象 / 2019年度グッドデザイン賞受賞）「あそびツール®」（幼児対象）の普及に加え、全国に広がる探究パートナー・ネットワークで培った知見をもとに、探究学習の認知向上や講師人材の育成に取り組んでいます。

詳しくは
HPにて



▽参加者アンケート▽



教育で未来をつくる

ROJE



ROJE
mayfes
education
forum

当企画は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら運営しています。

終了後に体調不良などがあった場合は五月祭常任委員会指定の連絡先にご連絡ください。

(<https://gogatsusai.jp/95/visitor/guideline>)